

平成24年度「重点研究費」研究成果報告書

研究課題	文学作品を素材とする異文化理解教育
------	-------------------

研究代表者

氏名 稲見正浩	所属 哲学・倫理学分野	職名 教授
------------	----------------	----------

研究分担者

氏名 林 邦夫	所属 歴史学分野	職名 教授
若林 恵	ヨーロッパ言語・文化研究 分野	准教授

【研究成果の概要】 (文字の大きさ9ポイント・字数800字～1600字程度)

多言語多文化教室では多種多様な講義を開講している。しかし、相互の講義内容の連携をはかった、統一テーマのものはない。本プロジェクトでは、よりテーマの統一性が明確な講義を設定するための準備として、文学作品の中に見られる他者認識をテーマとして、異文化理解教育の教材開発を模索しようと試みた。

稲見は古代インドの叙事詩等に見られる様々な文化間の交流について研究した。特に『マハーバーラタ』において研究登場人物達の口を借りて人間の目的とは何かについて種々の考え方が提示される箇所があるので、そこに見られる人生観の違いについてサンスクリット原典の解読研究を行った上で解明した。

林は16世紀スペインのモリスコ小説をとりあげ、そこに描かれたムスリムのイメージを分析し、スペイン人が異教徒のムスリムをどのようにとらえていたかを明らかにした。

若林はプラハのユダヤ人作家フランツ・カフカ(1883-1924)をとりあげ、チェコ人、ドイツ人、ユダヤ人の暮らす多民族都市プラハに生きたカフカの作品に反映された他者認識を解明した。

上記三人はそれぞれの分野において個別に研究をすすめたが、その過程で定期的に研究会をもって成果をもちより意見交換を行った。それにより、「文学作品の中に見られる他者認識」を統一テーマとして連携した授業等を展開する、新たな異文化理解教育の道について検討した。また、それぞれの教材開発についても意見を交換した。

本プロジェクトは教材開発という実践的目的をもっているため、その研究成果は今後の授業に生かされる。異文化理解教育は現在の社会における異文化理解を対象にすることが多いが、本プロジェクトのように過去の時代や異国における異文化理解を、文学作品という受講者の興味をひきつける素材をとおして解説することでユニークな講義になると確信する。

なお、研究分担者の林は残念ながら24年8月に急逝したが、それまで精力的にこの研究に従事したことを追記する。

研究成果発表方法

[発表論文名(口頭発表を含む)、氏名、学会誌等名(投稿中・投稿予定・執筆中)を記入する。]

※本経費を用いて、報告書(冊子等)を作成した場合には、本様式とともに1部を提出すること。なお、提出された報告書は教育実践研究推進本部を通じて附属図書館へ寄贈する。

本研究は教材研究であるため、研究成果は分担者の今後の授業内容に直接的に反映させる。